



2000年5月～7月、韓国のマサン(馬山)市で、第12回馬山国際演劇祭が開催された。今回の演劇祭においては、韓国・ロシア・モンゴル・日本の13の劇団が参加し、日本からは劇団SAKURA前戦・内田るり舞踊団・織茂秀子が参加し、このうち織茂さんの公演に同行する機会を得た。

馬山市

韓半島(朝鮮半島)の南端に位置するマサンは、首都ソウルからは高速バスで約5時間、プサン(釜山)のキムヘ(全海)空港からはバスで1時間の場所にある港湾都市である。町の西側はなだらかな丘陵に囲まれ、町の東側がマサン湾であり、約100km先には対馬を望む位置にある。

マサンというと、梅鮮料理の中でも「アグチム(アンコウ)」料理が有名であり、特に市内のオドン地区では食堂・レストランのメニューに「アグチム」の名前は欠かせない。大きな皿に盛られた15000ウォン(日本円で約1500円)のコースを試食してみたが、見た目よりさっぱりとした辛さが美味しく感じられた。

また市内には、中心街に大宇百貨店が1つあり、町の大きさや雰囲気などはどことなく豊橋の町に似ている。ただ違っていている所は、街の看板がすべてハングルであることと、黄色のタクシーが、かなりのスピードで走ることである。さて、“暴走タ

クシー”に乗って、演劇祭の会場の一つであるカトリック女性会館に向かった。

「旅人打鈴」

織茂秀子さんの一人芝居「旅人打鈴」(栗木英章・織茂秀子作、木崎祐次演出)の公演は、日本における99年6月(平針小劇場)、10月(名古屋主税町教会)などの公演に次ぐ三度目の公演であり、今回は韓国語による初の上演となった。カトリック女性会館の会場には、女子高校牛を中心とする若い観客層が大勢集まり、また名古屋テレビ、韓国KBSやMBCなどの取材もあって、午後3時および7時の公演はともに熱気に包まれた。

「ナグネ(旅人)」とは旅行者・エトランゼの意味であり、また他郷にいるよそ者という意味も含んでおり、この劇は故郷(朝鮮)へ帰れなかったある老女(元従軍慰安婦の女性)の「タリョン(打鈴; 語り)」を主題としている。

物語は、1944年長野県松代の大本営移転の工事に潮る。当時、日本政府は、この地下壕工事のために、朝鮮で強制徴用を行い、またその際、女性を慰安婦として日本へ連れてきた。この劇では、慰安婦にされた女性が、苦しく、切なく、無念の思いを、同じ境遇で梅に身投げした妹の心情に重ねて、過去を一人振り返るという設定である。

劇がはじまると、主人公の女性の望郷の念が、見ている観客の心に伝わり、また主人公の境遇とその心情が、織茂さんの迫真の演技によって、みごとに引き出されていた。公演の前には、大騒ぎ



リハーサル風景(中央が織茂秀子さん:馬山カトリック女性会館で、2000年6月)

をしていたマサンの高校生たちも、じっと劇に入り、「ヨンヒ！（妹の名前）」と叫ぶ主人公の姿は、多くの韓国の女性観客の涙をさそった。

日韓文化交流

今回の馬山国際演劇祭における日本の演劇公演は、韓国における文化開放政策の一環である。韓国では、98年10月にキム・デジュン（金大中）大統領が「日本文化の開放」を正式に表明して以来、韓国において、日本の大衆文化のうち、映画・ビデオ・出版などの間放が始まり、続いて歌謡曲・アニメーションなどの開放が始まった。演劇の開放もこの流れに沿ったものである。

まず映画では、98年、北野武監督の映画『HANA-BI』が韓国における日本映画の輸入第1作となり、映画『Love Letter』などのヒットを経て、2000年の5月からは、映画『Shall we ダンス?』がソウルなどの都市で大ヒットしている。また音楽においては、98年、韓国で沢知恵が初めて日本語の歌をコンサートで歌うこと許可されたのを機に、99年にはキム・ヨンジャが美空ひばりなどの歌謡曲を初めて韓国のコンサートで歌った。

一方、演劇においては、85年つかこうへい、93年の平田オリザの韓国語公演を経た後に、99年に韓国における日本語の演劇公演「売春捜査官」（つかこうへい）が許可された。今回で12回を数える馬山国際演劇祭においては、91年から日本の劇団が参加しているが、日本語公演が公式の場で認められるようになったのは、ここ一、二年のことである。それゆえ、今回の織茂さんによる公演も、日韓の大衆文化交流に少なからぬ役割を果たしたといえる。演劇祭を主催した劇団馬山のイ・サンヨン（李相龍）団長によると、来年はさらにアジア演劇交流の輪を広げ、中国の劇団の招待を検討しているとのことであり、また李団長からは中国の現代劇（話劇・新劇）の状況を尋ねられた。

マサンからの帰路は、プサン（釜山）のキムヘ空港から福岡空港を経て名古屋へ戻ることになった。飛行機に乗るとすぐに熟睡する癖のある私は、座席シートを後ろに倒そうとすると、座席を元の

位置に戻すようにとのアナウンスがされた。すでに飛行機は対馬海峡を越えて着陸態勢に入っていたのである。福岡空港に到着した時、時計をみると、プサンを出発してから30分も経過していなかった。

「あまりに近すぎて、あまりに知らなすぎる」日韓相互の文化交流の雪解けは、織茂さんのように、人と人の交流がら始まることをあらためて痛感した。2000年8月に予定されている韓国のテグ（大邱）における織茂秀子さんの公演に期待したい。



オ スジョン

映画広告『오! 수정』（韓国映画）『Shall We ダンス?』（日本映画）（ソウル江南シティ劇場、2000年6月）



韓国文学史上最大の話題作と言われる『太白山脈（全10巻）』の日本語約が昨秋出版されている。

チョ・ジョンネ ユン・ハクジュン

<趙廷夾（尹学準監修、川村湊校閲、筒井真樹

子他訳）『太白山脈』集英社、1999年10月～2000年6月：原作『태백산맥』全10巻、1986>。韓国では出版以来500万部をこえる超ベストセラーとな